

## 委託加工に伴う原材料及び製品の輸出入に関する 93SNA 及び 08SNA の相違

### 今回議題にした趣旨

平成 23 年表の枠組みは既に決まっていますので、23 年表での対応に係るものではありません。一方、次回平成 27 年表の初期段階については、平成 12-17-23 年接続産業連関表の作業と並行し、スケジュールが大変厳しいものになることが想定されます。そのため、新たな事項や概念上の整理に、それほどの時間が割けないことが予想されます。そこで、27 年表に係る先行検討として、今回、議題にしました。

具体的には、次のようなケースについて、どのように記録するかという問題です。

- ・国内で委託加工するための原材料の輸入と、加工後の製品の輸出
- ・海外で委託加工するための原材料の輸出と、加工後の製品の輸入



93SNA	08SNA
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 所有権の移転原則の例外として扱う。</li> <li>◆ 加工用の原材料及び加工後の製品の輸出入について、それぞれ財の輸出・輸入として記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 所有権の移転原則に沿って扱う。</li> <li>◆ 財を所有する国と加工サービスを提供する国との間の財の行き来について、財の輸出入として記録しない。</li> <li>◆ 輸入及び輸出として記録されるのは、財の所有者と加工者の間で合意された料金（加工サービス）のみ。</li> </ul>
(詳細は、別添 1 を参照)	(詳細は、別添 2 の参照)

## 別添1 93SNA (抄)

### 第14章 第XIV章 海外勘定 (対外取引勘定)

14.61. 所有権の移転原則に対する第四のそして最後の例外は、海外での加工のために発送される財貨に関する。一般に「体系」で採用される原則は、居住者単位と非居住者単位の間で所有権の移転なしに一時的に海外に発送される財貨は、輸出品または輸入品として計算されるべきではないということである。一時的に海外に発送される財貨は、おそらく、それに対してなされたなんらかの維持、保守あるいは定例補修を別として、国を離れた時とだいたい同一の状態に戻る財貨として理解されよう。しかしながら、こうした条件は、ある企業が海外でその財貨に対する一定の製造工程を施すことを他の企業と約束または契約するときには、満たされない。この場合、企業は原材料または半製品を海外に発送するかもしれないが、それらは外国の製造業者の生産工程に対する投入となり、その後遂行された生産に対する料金を製造業者に支払って、これらの工程から産出を取り戻す。このような状況では、最初に海外に発送された財貨は、別の財貨に変換されるか組み入れられるかして、その同一性を喪失する。同様に、返送された財貨は、本質的に海外で生産された新しい財貨である。返送された財貨は、税関当局により、また国際貿易統計の中で、発送された財貨とはまったく異なるように分類されて当然である。このような状況では、たとえ海外に発送された財貨が非居住者に対して販売されることがなくても、「体系」はその財貨が輸出として記録されることを要求する一方、たとえ返送された財貨が非居住者から購入されていないとしても、その財貨が輸入として記録されることを要求する。

出典：「1993年改訂 国民経済計算の体系 上巻」平成7年3月・経済企画庁経済研究所国民所得部

## 別添2 08SNA (抄)

### 第14章：供給・使用表と財・サービス勘定

14.37 産業関連表または供給・使用表の従来の観点は、生産の物理的または技術的過程を描くことであった。その目的は、他の生産物を作るにはどの生産物を組み合わせるか、またはどのような比率で組み合わせるかを示すことであった。(後略)

14.42 加工財の全価値の代わりに加工料金によって、加工中の財を測定することは、本来の投入-産出係数を変化させる。これはもはや、産業過程の技術構造を示すものでなく、経済過程を示すものである。係数の変化は、技術の変化ではなく、自己勘定で処理された石油(この場合)の割合、また別の単位に代わって処理した石油の割合の変化の結果である。加工用財(および仲介貿易商品と類似するがはっきりと異なる場合)の扱いに関するさらに広範な議論は、第26章で述べられるが、供給・使用表および産業関連表への影響は非常に重要であり、これらの表が伝える情報について、従来の認識の多くを変更させる。

### 第28章：投入-産出分析とその他の行列基盤の分析

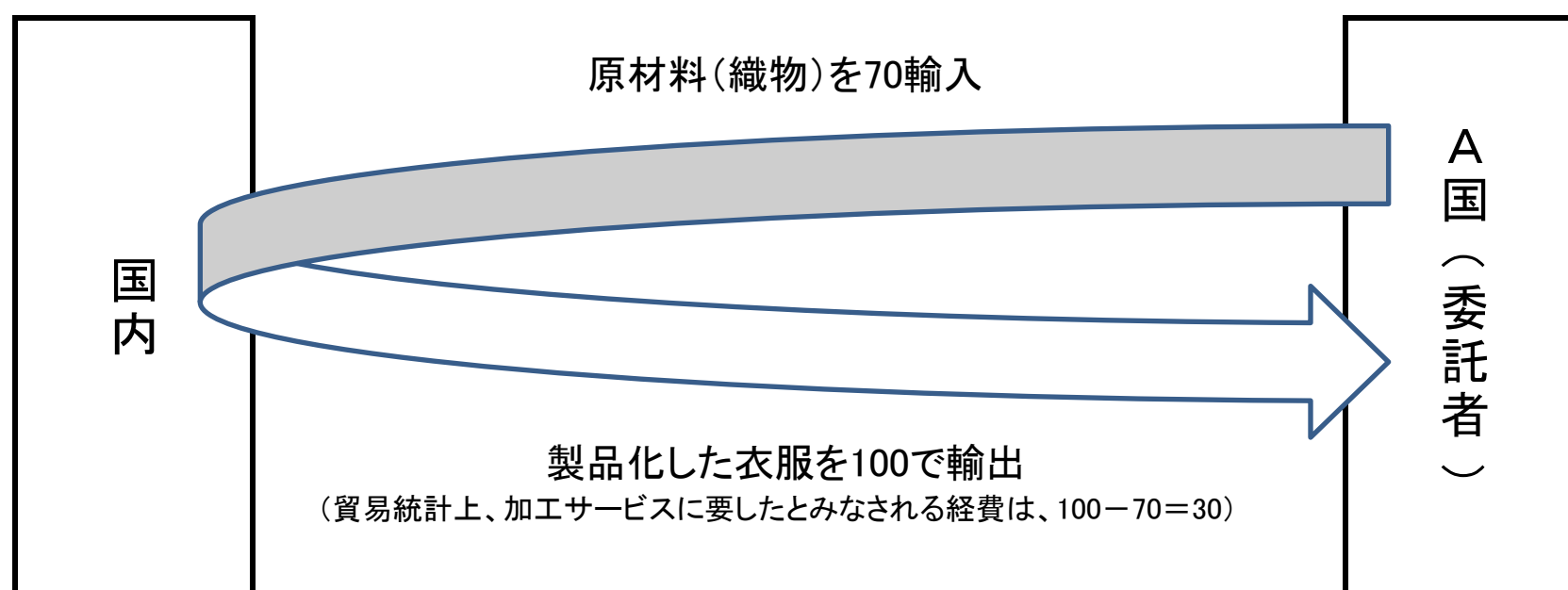
28.21 財が加工のため海外に送られる時、SNA、あるいは国際収支および国際投資ポジションマニュアル第6版のいずれにおいても、経済的所有権を有する国はそれを財の輸出として記録せず、加工する国は財の輸入として記録しない。同様に、加工した国は加工後の財を輸出として記録せず、経済的所有権を有する国は財の輸入として記録しない。唯一、輸入および輸出として記録される項目は、経済的所有者と加工者の間で合意された料金である。

出典：内閣府経済社会総合研究所提供の仮訳

**【ケース1】 順委託加工・・・原材料を輸入して、国内で加工し、製品を輸出する場合**

〔設例〕

- ① 衣服部門が、原材料(織物)を、A国(委託者)から70輸入する。  
② 衣服部門は、この原材料を、国内で衣服に加工する。  
③ 衣服部門は、製品化した衣服を、A国(委託者)に100で送り返す。



【現行】

	A部門	織物	衣服	Z部門	消費支出	輸出(普通貿易)	輸出(特殊貿易)	[控除] 輸入(普通貿易)	CT
織物			70					-70	0
衣服						100			100
付加価値			30						
CT			100						

衣服を製造するために国内で100の生産活動が行われている。

08SNAでは、次のような価額が計上される。  
・国内で原材料を調達した上で、生産された製品の輸出  
・委託契約とは関係なく、国外から輸入した原材料を用いて生産された製品の輸出

08SNAでは、次のような価額が計上される。  
・国外で原材料を調達した上で、生産された製品の輸入  
・委託契約とは関係なく、国内から輸出した原材料を用いて生産された製品の輸入

【08SNAの考え方を反映した場合に考えられる表章例】

	A部門	織物	衣服	加工サービス	消費支出	輸出(普通貿易)	輸出(特殊貿易)	[控除] 輸入(普通貿易)	CT
織物									
衣服									0
加工サービス							30		30
付加価値				30					
CT			0	30					

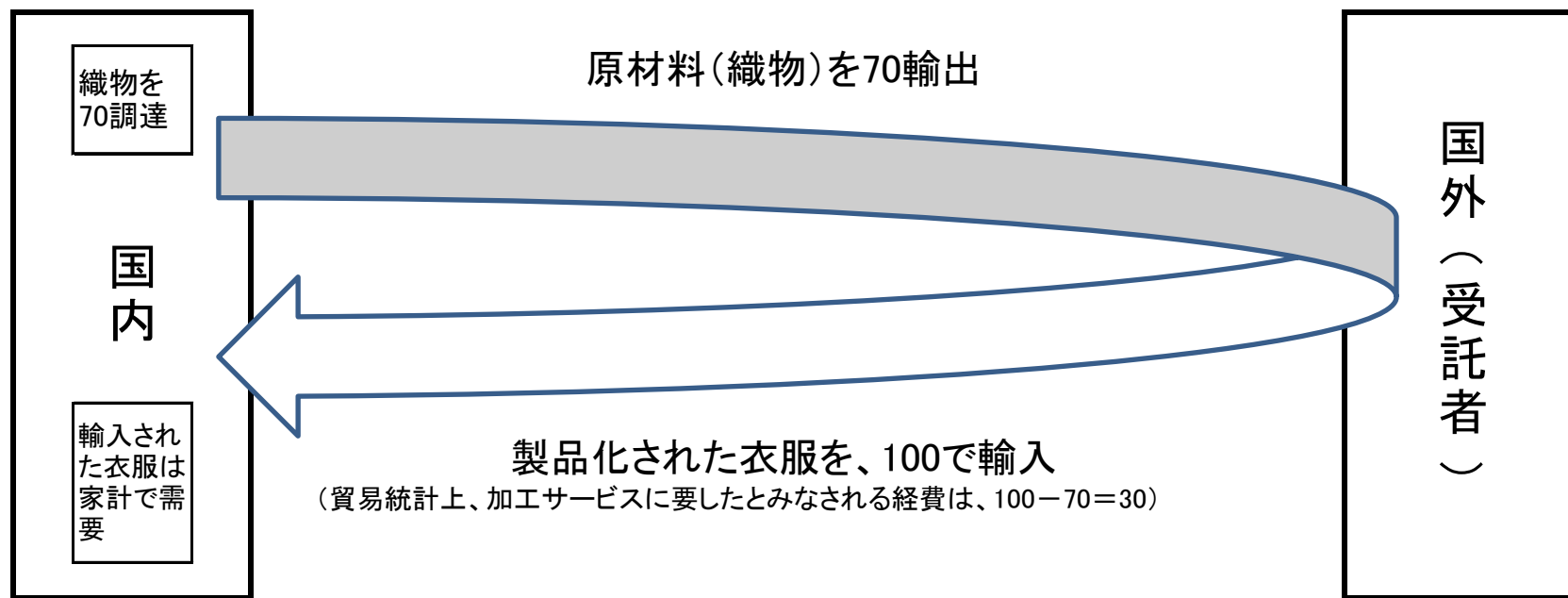
原料の輸入を記録できない。

加工サービス相当額のみ計上

**【ケース2】 逆委託加工・・・原材料を輸出して、国外で加工し、製品を輸入する場合**

〔設例〕

- ① 衣服部門が、国内の織物部門から原材料(織物)を70調達する。
- ② 衣服部門は、この原材料を、委託加工のためにA国(受託者)に輸出する。
- ③ 衣服部門は、製品化された衣服を、A国(受託者)から100で輸入する。
- ④ 輸入された衣服は、全額、家計で需要される。



【現行】

	A部門	織物	衣服	Z部門	消費支出	輸出(普通貿易)	[控除] 輸入(普通貿易)	CT
織物						70		70
衣服					100		-100	0
付加価値								
CT		70	0					

Text boxes in the table:  
 - Top left: 原材料(織物)を製造するために、国内で70の生産活動が行われている。  
 - Middle right: この設例では、衣服部門は国内で生産活動を行っていないので、CTは0

【08SNAの考え方を忠実に反映したと考えられる表章例】

	A部門	織物	衣服	Z部門	消費支出	輸出(普通貿易)	[控除] 輸入(普通貿易)	[控除] 輸入(特殊貿易)	CT
織物			70						70
衣服					100				100
加工サービス			30					-30	0
付加価値									
CT		70	100						

Text boxes in the table:  
 - Middle left: 委託加工に伴う原材料の輸出を「輸出」に計上できないため、その分を代替的に、完成品の部門に計上することが考えられる。  
 - Bottom right: 加工サービスは国外で行われる活動であることから内生部門の列としては立てられない。

**【08SNAに対応しようとする場合の表章上等の問題点】**

【ケース1】順委託加工	【ケース2】逆委託加工
(原材料を輸入して、国内で加工し、製品を輸出する場合)	(原材料を輸出して、海外で加工し、製品を輸入する場合)
① 国内の生産規模や国内生産に係る投入構造等を描くという産業連関表の本来の目的が失われるおそれがある。	
② 実際に財が国境を越えて動いており、輸出段階の財と輸入段階の財が異なるにもかかわらず、それが記録されなくなる。 その結果、輸出・輸入それぞれの金額が減少するとともに、輸出入の全体像が記録されなくなる。	
③ 原材料の輸入が表章できないため、国内で生産活動が行われているにもかかわらず、国内生産額に計上できない。	③ 原材料の輸出が表章できない一方、原材料の購入費用の負担者が衣服部門であるため、その金額を代替的に、[列]衣服に計上することが考えられる。 その結果、国内で生産活動が行われていないにもかかわらず、擬制的に国内生産額が計上されてしまう。
④ 仮に、加工サービスを独立して表章すると、[列]加工サービスに、国内における様々な財の加工サービスの投入構造が混在し、何に関する加工の投入構造なのか分からない。	④ 設例では、海外での加工のみを想定し、国内生産を考慮していないが、実際には、国内で完結する衣服の生産活動も存在する。 その結果、[列]衣服のアクティビティの中に国内で行われた通常と生産活動の投入構造と、国外に委託した加工サービスの投入構造が混在し、何についての投入構造なのか分からなくなる。 (両者を区分するデータも存在しない。)
⑤ 時系列比較が困難になるだけでなく、接続表の作成が極めて困難になる。	

**【加工サービスを計測する上での問題点】**

<p>⑥ 本来、08SNAが求めているのは、「加工に対して合意された料金」(14.38)、つまり、実際に加工賃として支払われた金額と考えられる。そのため、貿易統計における委託加工に係る輸出・輸入の差し引き(設例では100-30=70)を、加工サービス相当額とみなす取扱いは、必ずしも正しくないのではないかと疑念がある。</p> <p>純粹に加工賃を把握することが可能な統計としては、国際収支統計において、2014年3月公表の同年1月分から08SNAに対応した新しいマニュアルに基づき、統計が公表される予定であり、その一環として、「加工賃」が公表される予定。 しかし、総額は分かるものの、財別のデータは存在しない。</p> <p>仮に、代替的に貿易統計の差し引きをもって、加工サービス相当額として扱うとしても、輸出はFOB価格、輸入はCIF価格であることから、単純な差し引きは、加工サービスを正確に計測できないと思料される。 それに、そもそも、原材料と製品が1対1対応するとは限らず、輸出のデータと輸入のデータの対応付けが、極めて難しいのではないかと。</p>
---



**【現時点での方向性】**

**産業連関表の作成目的を維持する必要性、データ上の制約などから、導入は困難**

(参考情報)

JSNAでは、次回基準改定における対応として、財別ではない輸出入の合計値で対応できる支出側では対応し、財ごとに分ける必要がある生産側については、基礎資料の制約から対応を見送り、両者をつなぐ調整表を別途作成することが一案として検討されている。  
(「国民経済計算次回基準改定に関する研究会」(第4回・平成25年7月19日))

## 統計的及び分析的ツールの統合パーツとしての IO 表と SNA (抄) (仮訳)

(IIOA ニューズレター : 2009 年 5 月号)

(前略)

改訂に当たって、44 項目の主要課題リストが確認された。IO 表それ自体は主要課題リストには掲載されなかったが、提案された変更事項のいくつかは IO 表に含まれる品目の推計に影響を及ぼした。その中で IO 表への影響が最も大きい問題は、加工のために輸入される財の取扱いである。

08SNA における決定事項は、加工財の輸出入フローをグロスではなくネットで取り扱うということである。これは過去における取扱いであり、国際収支マニュアル (BPM5) との整合性を図るための実物フローの考え方とは相反する原則を与えるものである。実際の財の出荷量を重要視する IO 表の作成において、この原則の変更をある程度無視してよいか否かについては、現在も議論が続いている。

08SNA では、IO 表のパートは大幅に書き替えられている。事実、IO 表のパートは 2 つの章に分割された (Volume 1 の第 14 章と Volume 2 の第 28 章)。第 14 章と第 28 章の 1 次改訂案には、範囲及び詳細事項に関する多くの重要なコメントが寄せられた。その多くは重大な誤りや誤認を指摘するものであった。しかし、残念ながら、ごく一部のコメントが取り上げられただけで、それらですら、その次の 2 次改訂案の中では限られた部分しか反映されていない。このように大変不満の残る結果であったことから、IIOA は国連のウェブサイトへ直接コメントを送付した。その内容は以下のようなものである。

「国際産業連関分析学会 (IIOA) は、08SNA に記載されている投入産出フレームワークの方法に大変関心を持っている。我々の会員の多くは IO 表のメーカーとユーザーであり、IO 表の作成及び利用を行う上での基本的な事項を理解するには、多くの観点で、SNA の原文を最も重要な参考資料としている。したがって、08SNA が投入産出フレームワークに関して一貫性、整合性及びユーザーの利便性に配慮した説明を提供し、同時に、93SNA 以降に開発された最先端のものとなることが重要である。それ故に、計 18 か国から送付された第 14 章に対する重要なコメントの一部しか改訂案に反映されていないことに懸念を有している<sup>1</sup>。我々は第 14 章の改訂に必要な時間と努力がかけられることを信じており、そして、そのために我々が出来る限りの支援を行う用意がある。」

このように、08SNA は、事実上、投入産出フレームを軽視し、もはや我々の分野 (IO 表のメーカー及びユーザーの双方に) に首尾一貫した説明を提供しないものとなってしまった。その代わりに記載されたのは、多くの問題を含む記述と IO 表とその分析的利用の関係性に関する基本的な理解に資することのない数値例である。一方で、国民経済計算体系の統合部分としての IO 表の最も基本的な原則と IO 表と広範な国民経済計算体系との整合性を維持することの重要性については支持されている。

<sup>1</sup> 国連に送付されたコメントの原文を元に一部補足して和訳した。

原文 : <http://unstats.un.org/unsd/sna1993/countrycomments/chapter28dv2IIOA.pdf>



Jiemin Guo (OECD)



Bent Thage (Statistics Denmark)

### Editorial

## IO Tables and SNA as an integrate part of statistical and analytical tools

Dear IIOA member,

While Wassily Leontief pioneered the input-output system in the 1930s, the development of national accounts system took place at the same time or soon after. In response to the lack of information to cope with the economic problems of the Great Depression, Simon Kuznets was asked by the US

Department of Commerce to develop a set of national economic accounts for the United States, which subsequently evolved as the National Income and Product Accounts (NIPAs.) But it was Richard Stone, who developed the national accounts framework for the UK in the 1940s, under the request of Organisation for European Economic Cooperation (OEEC, which became OECD in 1961) design A Standardized System of National Accounts (1952), then chaired and directed the first System of National Accounts in 1953 published by the United Nations.

The 1953 SNA did not include IOTs. Stone considered this one of its major limitations: hence, much of his subsequent work concentrated on expansions of this aspect of the system afterwards. In 1954 he wrote the article "Input-Output and the Social Accounts," which outlined the future inclusion of input-output analysis and extended the development of the "social accounting matrix." Stone's goal of the extension of national accounting was fulfilled in 1968, when the SNA underwent its first substantial revision. Serving as chairman of the Expert Group, Stone wrote the first four chapters of 1968 SNA, which introduced I-O, along with flow-of-funds accounts, and national and sector balance sheets to the System.

The introduction of I-O by the 1968 SNA had two important aspects. Firstly the concepts and the actual figures of the I-O tables were now assumed to be completely consistent with the time series of the national accounts, allowing for a more efficient analytical use of both types of data. Secondly techniques in compiling the data were set in the framework of separate supply and use tables, which were viewed as an efficient way of compiling a consistent set of national account, in both current and constant prices.

The integration of I-O in the overall system of national accounts is an important feature of the 1993 SNA. It includes an integrated set of supply and use tables (SUT), as well as symmetric input-output tables. Its role in the System is primarily related to the goods and services accounts and to the shortened sequence of accounts for industries. The SUT (I-O) construction serves two purposes, those statistical and analytical. They also provide a framework for checking the consistency of statistics obtained from different sources. This integration of not only concepts, but also compilation techniques, was gradually implemented in still more countries during the following decades. So when the 1993 SNA came out, the clear recommendation was to follow this integrated approach, and the advantages in the form of an efficient use of all available information when compiling the current price values, and a consistent framework for the constant price estimates were underlined.

In 2003 the Statistical Commission of the UN initiated an update of the 1993 SNA (to the 2008 SNA). There are two volumes for the 2008 SNA, which is scheduled to be released in the summer of 2009, one year later than originally plan.

A list of 44 substantive issues for updating was identified. Input-output as such was not on the list, even though some suggested changes affected the measurement of items entering the tables. The most important of the issues affecting IOTs is a change in the treatment of goods sent abroad for processing.

The decision was to treat these flows net instead of gross, which was the earlier treatment, gives principle priority vis-à-vis the physical flows so as to facilitate consistency with the balance of payments manual (BPM5). Discussions are still underway with regard to whether this change in principle may be ignored to some extent when compiling the I-O tables, where the actual shipments of goods are usually perceived as important.

In SNA 2008, the input-output part was completely rewritten. It was, in fact, split into two separate chapters (Chapter 14 in volume 1 and chapter 28 in volume 2). The first drafts of both chapter 14 and of 28 attracted many critical comments concerning the scope and specific contents: many pointed out critical errors and misunderstandings. Unfortunately, only a few comments were accounted for and even then in a limited manner in subsequent drafts. This unsatisfactory result prompted a direct comment on the UN web site also from the IIOA that reads as follows:

"The International Input-Output Association (IIOA) takes a major interest in the way the input-output framework is presented in the 2008 SNA. Our membership include both producers and users of input-output tables and will in many respects have the text of the SNA as their main reference when it comes to understanding the essentials of compiling and using input-output tables. It is therefore important that the 2008 SNA gives a coherent, consistent and user friendly exposition of the input-output framework and at the same time represents the state-of-the-art as it has developed since the 1993 SNA. It is therefore with some concern that that substantial comments were taken into account in the redrafting. We trust that the necessary time and effort will be taken to redraft the chapter, and we would be ready to assist in any way possible."

Thus the SNA 2008 effectively downgrades the input-output framework and no longer provides a coherent introduction to our field—for neither compilers nor users. What is in place instead is an unbalanced text that with many problematic statements and some numerical examples that often do not support a basic understanding of the connection between I-O tables and their analytical uses. On the other hand most basic principles with regard to I-O as an integrated part of the system of national accounts and to the importance of maintaining consistency between the I-O tables and the broader set of national accounts are upheld.